

まつぼっくり

学校教育目標「支え合い・学び合い、多様な達成感を体感し、ふるさとを愛する児童の育成」



宇城市立三角小学校
学校だより 第59号
文責 校長 西村羊治
令和7年12月11日

琴・三味線・太鼓

9日(火)午後、和楽器の鑑賞を行いました。琴・太鼓・三味線のプロの方に来校いただき、いろいろな曲を演奏したり歌ったりしてくださいました。子どもたちも職員もその演奏の繊細さや迫力に引き込まれ、身を乗り出して鑑賞しました。琴には13本の弦があるもの、21本のもの、長い歴史のあるもの、最近のもの、三味線には津軽三味線、沖縄の三線、ばちもいろいろ



一緒に!

な種類がありました。太鼓はしめ縄太鼓、釘を使ったもの、ボルトとナットを使ったものがあることがわかりました。どの楽器も日本のよき音楽文化に欠かせないすばらしいものです。私が

特に印象に残ったのは大きなしめ縄太鼓です。バットのようなばちで、全身を使って演奏されている姿には言葉では言い表せないものすごい迫力があり、その姿と地響きのような音に圧倒されま



三味線と琴

した。体育館の中は寒かったのですが、演奏された方は汗びっしょりでした。

演奏のプロの方々でしたので、子どもたちのの方も上手で1年生から6年生まで140人全員が、興味津々で演奏を聴き、集中した顔、驚いた顔、圧倒された顔、笑顔、感動の顔、

いろいろな表情を見せてくれました。子どもたちの表情を見る限り、とても有意義な時間となっていました。後半は、4

年生から6年生限定でしたが、それぞれの楽器の体験ができました。琴演奏時の座り方、手の置き方、弦のはじき方を学び、「さくら」を演奏しました。三味線の体験者は、それが三味線とばちを持ち、リズムに乗って弦を上手にはじいていました。最後は太鼓です。小さなものから大きなものまでみんなで譲り合いながら、興味を持って笑顔で叩いていました。そして、全員でソーラン節を演奏したり踊ったりしました。日頃触れたことのない楽器に触れ、体育館中がなんとも言えない、すばらしい空間になりました。



太鼓体験



三味線体験



琴体験



興味津々



迫力に圧倒

「和楽器にぎわい座」の4名の皆さん、本当にありがとうございました。